

## 既存管理システムの一部を 統合することで作業の効率化へ 導く

### 重複作業や紙ベースの承認作業が問題点

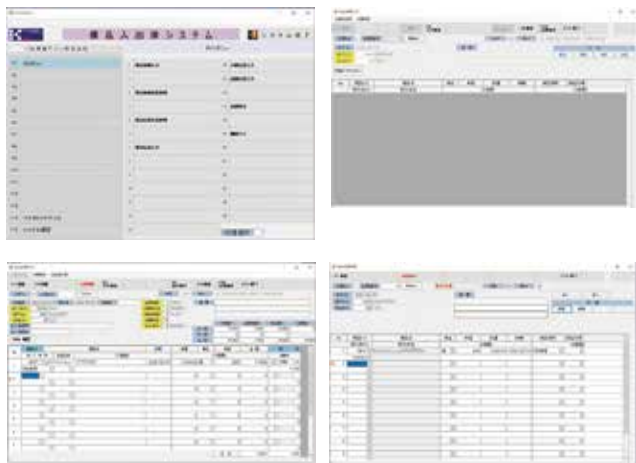
北海道ワイン株式会社は1974年創業以来、北海道に根ざしたワイン製造を行っている。現在は年間200万本を超えるワインを出荷し、全道1位のワイン醸造・販売規模となった。北海道の次世代産業には、IoT・AI等の新しいデジタル技術が必要であるとの思いから、同社はスマート農業の実証実験への協力も始めた。その一方で、社内には古いシステムが存在し、さらに、それらシステムが個別に存在しており、大きな問題となっていた。また、各システムで二重入力に見られるような重複作業や、紙を使用した承認作業によって、作業時間の増加や印刷コストなど、業務の非効率にも悩んでいた。ただ、この存在している個別の既存システム全てを見直しとなると、多額の経費や時間が必要になる。そこでIT活用促進事業費補助金を活用し、既存のシステムの一部である「副資材・副原料管理システム」の見直しを行った。

### システム統合・デジタル化で問題点を解消

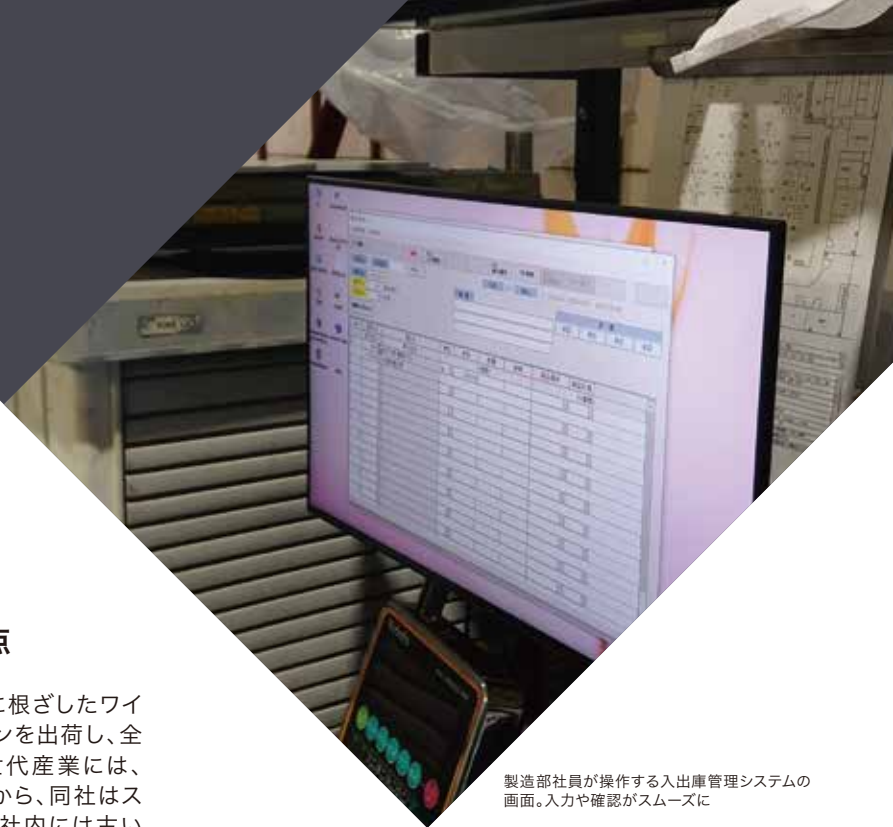
「副資材・副原料管理システム」は、発注処理を行う「備品入出庫管理システム」と「副資材管理システム(日次処理・買掛管理・在庫管理・財務連動)」で組み立てられている。今回は、これらのシステムを統合し、ひとつの「入出庫管理システム」を構築した。

ワークフローをデジタル化することで、運用の効率化が実現できた。さらに、複数のシステムを統合しデータベース化することで財務システムとの連携もスムーズになった。システムの統合・デジタル化により、1年後には、ペーパーレスによる紙削減(導入前比5%減)、発注業務の工数削減(導入前比30%減)、財務関連業務の工数削減(導入前比50%減)が期待できる。

今回の支援を受け「さまざまな状況が発生する現場でも、柔軟な対応を可能とする今回のシステム構築は容易ではなかったが、さっぽろ産業振興財団の担当の方々にきめ細やかなサポートを頂いたことで、順調に開発を進められました。」と話してくれた。



システムの承認や発注依頼、発注等の画面



製造部社員が操作する入出庫管理システムの画面。入力や確認がスムーズに



代表取締役社長  
髙村 公宏

### ペーパーレス化・業務時間短縮。 業務効率化への第一歩を

今回補助金を利用することで、既存システムの構築や統合ができ、業務効率化への第一歩となりました。将来的には、生産計画と進捗状況に適した自動発注の仕組みを導入することで、発注業務の効率化を図っていくと考えています。

## 北海道ワイン 株式会社

### 良質で個性豊かな 北海道産ワインを醸造・販売

1974年創業。豪雪・寒冷という厳しい北海道の自然環境でもさまざまな工夫を凝らし、北海道に根ざしたワイン製造を行なっている。

設立 1974年1月

従業員数 80名

代表者 髙村 公宏



北海道小樽市朝里川温泉1丁目130番地

TEL 0134-34-2181

FAX 0134-34-2183

URL: <https://www.hokkaidowine.com/>